

水難学会情報 13-1

年齢別生還率について

平成25年7月9日

毎年、警察庁生活安全局地域課から報告される水難の概況（平成24年中においては http://www.npa.go.jp/safetylife/chiiki28/h24_suinan.pdf を参照）に、中学生以下の子供の統計と全体の統計が掲載されています。

この統計を利用することで、水難から生還した割合として、生還率を求めることができます。算出式は（1）式に従います。

$$\text{生還率（\%）} = \frac{\text{負傷者（人）} + \text{無事救出者（人）}}{\text{水難者（人）}} \times 100 \quad (1)$$

生還率を水難発生年でまとめると図1のとおりです。特徴として、2つが挙げられます。まず、子どもの生還率はそれ以上の年代に比較して格段に高いこと、そして生還率の上昇の程度が子供で大きいことです。子供が生還している中で、大人ではなぜ生還できない人が多いのでしょうか。

いま、全国の水難救助現場より、「子どもが浮いて救助を待っていた」という報告が次々に寄せられています。各学校における着衣泳教育が奏功してきた証左ではないかと考えます。ぜひ「浮いて救助を待て」と教えてください。

